

日本と韓国の大学入学共通試験における使用語彙の比較研究 —外国語「英語」(1994-2009年度)の分析—

津村 敏雄

要旨

The purpose of this study is intended as a part of a comparison of English education in Japan with that in South Korea. In both countries, the entrance examination which is the nation's most widely used as admissions test among colleges and universities has been conducted for a long time. In Japan, the entrance examination is called 'National Center Test for University Admissions'; in South Korea, it is called 'College Scholastic Ability Test.' It assesses not only students' knowledge of English skills but also the critical thinking abilities which students need for academic success in college and university. The author chronically analyzed both English examinations which had been conducted from 1994 to 2009 especially focused on vocabulary with special reference to token, type, readability, and distribution of the vocabulary control list. The findings of this analysis show that the number of vocabulary in the entrance examination of both countries has been increasing gradually since 1994, and that the entrance examination of South Korea has a tendency to use wider range of vocabulary in the vocabulary control list as well as larger vocabulary in number than that of Japan.

キーワード：日本，韓国，大学入学共通試験，コーパス

1. はじめに

日本では、毎年1月中旬に大学入学共通試験（国公立大学の一次試験のみならず多くの私立大学も参加するマークシート方式による択一型試験）の「センター試験」（正式名称は「大学入学者選抜大学入試センター試験」）が実施されている。一方、日本ではあまり知られていないが、韓国においても毎年11月中旬に同様のマークシート方式による択一型の大学入学共通試験（ただし、日本と異なり国公立・私立を問わず全ての志願者が受験）の「수능시험（修能試験）」（正式名称は「대학수학능력시험（大学修学能力試験）」）が実施されている。果たして、韓国の「수능시험（修能試験）」の入試問題にはどのような語彙が使用されているのだろうか。本稿では、日本と韓国の英語教育の比較研究の一環として、日本と韓国の大学入学共通試験（日本：「センター試験」、韓国：「수능시험（修能試験）」）の「外国語『英語』」の

試験問題における使用語彙を計量的に比較分析する。本研究の意義は先行研究が未だ少ないことと日本の英語教育への示唆にある。日本と韓国の英語教育を扱った先行研究としては、馬越（1981）や清永（1999）や河合（2005）のように、教育課程やカリキュラム、教材の題材や内容を扱ったものが大半を占めており、伴（2002）や投野（2008）のような計量的な分析は研究が立ち遅れている部分である。また、筆者が韓国の大学入学共通試験を分析対象として取り上げる理由は、日本も韓国も英語をEFL(English as a Foreign Language)として、すなわち、生活言語としてではなく外国語として学習するなど学習環境が極めて類似しているほか、学校教育制度（633制）やシラバス（日本『学習指導要領』、韓国『교육과정（教育課程）』）、検定教科書制度など日本の英語教育との共通点が極めて多いことにある。さらには、初等教育への英語教育の導入で大学入試問題に影響がみられたのかについても考察を加えることにしたい。韓国では初等学校（日本の小学校に相当）に英語教育が導入（1997年度に初等学校の第3学年から実施）された第1期生は既に大学生になっている。果たして、第1期生が大学入試に臨んだ2007年度の「수능시험（修能試験）」の入試問題の使用語彙に変化は生じたのであろうか。これらの課題を解明すべく、コーパス言語学の視点から、日本の「センター試験」と韓国の「수능시험（修能試験）」の「外国語『英語』」の入学試験問題16ヵ年分（1994-2009年度）を言語資料とする使用語彙の計量的分析を試みる。

2. 試験の概要（沿革・内容）

日本の「センター試験」は、前身となる国公立大学の一次試験として導入された「共通一次試験」を改編したもので1990年度から実施されている。やがて、私立大学の参加も認可されるようになり、現在では全国の多くの私立大学が参加している¹⁾。また、2006年度からはICプレイヤーを利用した英語のリスニング試験（「英語リスニング」）も導入されるようになった。「センター試験」の「外国語『英語』」の実施要綱は、筆記が試験時間80分で200点満点、リスニングが試験時間30分で50点満点である。筆記は6つの大問から構成されており（表1を参照）、第1問「発音・アクセント」、第2問「文法・語法、整序作文」、

問題	分野	配点	設問数	使用素材・テーマなど
第1問 1-8	音声 発音 アクセント 強調の意図	6点	3	
		4点	2	
		9点	3	
第2問 9-28	語法 文法・語法 対話文完成 語句整序	22点	11	
		12点	3	
		12点	6	
第3問 29-36	読解 語句推定 発言要約 文補充	8点	2	「ドライブ中の出来事」 「テレビゲームの影響」 「台湾の超高層ビル台北101」
		15点	3	
		15点	3	
第4問 37-41	読解 図表 広告	30点	5	「清涼飲料の人気の変化」 「屋久島のエコツアー広告」
		(A18, B12)	(A3, B2)	
第5問 42-45	読解 会話文	24点	4	「電話での旅行の打ち合わせ」 「鉛筆と紙を使ったゲーム」
		(A12, B12)	(A2, B2)	
第6問 46-53	読解 長文読解	43点	8	「ヨーロッパ旅行をする孫娘に祖父からの助言」
合計		200点	53	

表1 日本のセンター試験(英語筆記)の構成 (2007年度入試)

問題	分野	配点	設問数	使用素材・テーマなど
第1問 1-6	短会話・応答完成/図表 聴解	12点	6	「待ち合わせ時刻」 「劇場の座席位置」など
第2問 7-13	短会話・応答完成	14点	7	「週末に読んだ本」 「電話の取り次ぎ」など
第3問 14-19	会話文・応答完成/図表 聴解	12点	6	「劇場までの交通手段」 「部屋の家具のレイアウト」など
第4問 20-25	モノローグ・内容把握	12点	6	「海水浴場の天気情報」 「文学賞と読書習慣の影響」など
合計		50点	25	

表2 日本のセンター試験(英語リスニング)の構成 (2007年度入試)

第3問「読解(短文読解)」、第4問「ビジュアル読解(図表・広告)」、第5問「読解(対話文)」、第6問「読解(長文読解)」の出題形式である。このうち、第1問の「発音・アクセント」と第2問の「文法・語法、整序作文」は、韓国の「수능시험(修能試験)」には存在しない問題形式である(図1を参照)。読解問題の分量は、第3問が80-100語程度、第4問から第5問までが200-300語程度、第6問が700-800語程度と、様々な長さの文章による総合問題となっている。「英語リスニング」は4つの大問で構成され、第1問「短会話(図表聴解)」、第2問「短会話(応答完成)」、第3問「対話文(応答完成・図表聴解)」、第4問「モノローグ(内容把握)」である(表2を参照)。

<p>第1問</p> <p>A 次の問い(問1~3)において、下線部の発音が、ほかの三つの場合と異なるものを、それぞれ①~④のうちから一つずつ選べ。</p> <p>問1 ① assure ② classic ③ efficient ④ social</p> <p>問2 ① abroad ② approach ③ coast ④ throat</p> <p>..... (中略)</p> <p>第2問</p> <p>A 次の問い(問1~11)の [9] ~ [19] に入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①~④のうちから一つずつ選べ。</p> <p>問1 After you pay a bill, you are given a [9] to show that you have paid. ① change ② discount ③ material ④ receipt</p> <p>問2 Brett has many spare-time [10] : he swims, paints, plays, the violin, and so on. ① actions ② activities ③ exercises ④ habits</p> <p>..... (中略)</p> <p>C 次の問い(問1~3)において、それぞれ下の①~⑤の語句を並べかえて空所を補い、文を完成させよ。ただし、解答は [23] ~ [28] に入れるものの番号のみ答えよ。</p> <p>問1 John is a very smart student. He somehow [23] [24] . ① how ② problems ③ seems ④ to get around ⑤ to know</p> <p>問2 We're facing troubles now. I would [23] [24] assist us. ① appreciate ② could ③ if ④ it ⑤ you</p>

図1 日本のセンター試験 (2007年度入試より一部抜粋)

一方、韓国の「수능시험(修能試験)」は、前身となる「대학입학학력조사(大学入学学力調査)」から改編された試験で1994年度から実施している²⁾。日本の「センター試験」と異なる点は、一次試験という扱いではないこと、高校の成績との合算で合否が判定されること、英語のリスニング試験は既に「수능시험(修能試験)」が開始した1994年度から導入されていること(リスニングの比率が高く試験問題全体の約3分の1を占める)などがある³⁾。「수능시험(修能試験)」の「外国語『英語』」実施要綱は、筆記が試験時間70分、リスニ

ングが試験時間 20 分で合計 100 満点である。なお、リスニングが実施される時間帯には会場周辺では車両進入禁止に、公共交通機関のバスや電車は徐行運転に、軍用機も含めた飛行機の離着陸も制限されるなど挙国体制で運営されている⁴⁾。そして、「センター試験」のような大問の設定がなく、問 1 から問 17 まではリスニング問題、問 18 から問 50 までが読解問題という構成である(表 3 を参照)。すなわち、韓国の「수능시험 (修能試験)」は(「センター試験」のように筆記とリスニングで試験の時間割が分割されることなく)リスニングと筆記が一体となった試験となっている。この他、異なる点としては、「センター試験」第 1 問のような発音・アクセント問題がないこと、語法・文法問題は(「センター試験」第 2 問のように独立した単文形式による文法問題ではなく)読解問題に組み込まれた出題形式にある。なお、読解問題は(「センター試験」第 6 問のような 700~800 語程度の長さはなく) 90-150 語程度のパラグラフの文章題が 28 個、250-300 程度の文章題が 2 個と、パラグラフ単位で様々なジャンルからの出題されており、短い時間で多くの問題を処理していく能力を要求する試験問題となっている(図 2 を参照)。

問題	分野	配点	設問数	使用素材・テーマなど
1-17	音声(リスニング) 短会話・モノローグ 図表聴解 状況把握 応答完成	34 点	17	「衣料品店での買物」 「美術館でのやりとり」 「ノートパソコンの販売価格」 「親子の公園での様子」など
18-45	読解(短文) 語句推定 語法 状況把握 空所補充 適語補充 図表読取 内容把握 文整序 題名選択	54 点	28	「図書館カードの利用法」 「ハダカハオコゼの生態」 「社会制度や技能の伝播」 「応募作品に対する回答」 「著名人の見識と活動の広さ」 「韓国の伝統的な帽子」 「医学者 Dominique-Jean Lary」 「子供に良心の育むには」 「履物の歴史」 「技術革新の背後にある諸問題」など
46-50	読解(長文) 段落整序 語句推定 内容把握 内容真偽	12 点	5	「転覆船からの脱出」 「果物の皮をめぐる議論」
合計		100 点	50	

表 3 韓国の修学能力試験の構成(2007 年度入試)

23. 다음 글의 밑줄 친 부분 중 어법상 틀린 것은? (次の文の下線部の中で語法上で間違っているものはどれか)

To be a mathematician you don't need an expensive laboratory. The typical equipment of a mathematician ①is a blackboard and chalk. It is better to do mathematics on a blackboard ②than on a piece of paper because chalk is easier to erase and mathematical research is often filled with mistakes. One more thing you need to do is to join a club ③devotes to mathematics. Not many mathematicians can work alone; they need to talk about what they are doing. If you want to be a mathematician, you had better ④expose your new ideas to the criticism of others. It is so easy to include hidden assumptions ⑤that you do not see but that are obvious to others.

..... (中略)

40. 주어진 글 다음에 이어진 글의 순서로 가장 적절한 것은? (与えられた文に続く順番で最も適切なものはどれか)

Footwear has a history which goes back thousands of years, and it has long been an article of necessity.

(A) The earliest footwear was undoubtedly bom of the necessity to provide some protection when moving over rough ground in varying weather conditions. In ancient times, as today, the basic type of shoes worn depended on the climate.
 (B) Shoes have not always served such a purely functional purpose, however, and the requirements of fashion have dictated some curious designs, not all of which made walking easy.
 (C) For instance, in warmer areas the sandal was, and still is, the most popular form of footwear, whereas the modern moccasin derives from the original shoes adopted in cold climates by races such as Eskimos and Siberians.

① (A)-(B)-(C) ② (A)-(B)-(C) ③ (A)-(B)-(C) ④ (A)-(B)-(C) ⑤ (A)-(B)-(C)

図 2 韓国の修学能力試験(2007 年度入試より一部抜粋)

3. 分析手順

日本と韓国の大学入学共通試験が現行の試験形式となったのは、日本の「センター試験」が1990年度入試から、韓国の「수능시험 (修能試験)」は1994年度入試からである。そこで、韓国の「수능시험 (修能試験)」の改編時期に合わせて1994年度入試から(本稿執筆時点で最新となる)2009年度入試までの過去16年分の入試問題を言語資料に用いることにした。資料の入手は、古い年度のは教学社(2006)と 시사영어사(2006)の過去問題集を、新しい年度のは大学入試センターと 한국교육과정평가원(韓国教育課程評価院)のダウンロードサービスを利用した。そして、紙媒体の言語資料をコンピュータで解析可能にするために電子テキスト化する作業は、①紙媒体の言語資料をスキャナにかけてPDFファイルを作成、②PDFファイルにOCRソフトを用いてテキストファイルに変換、③エディタとPerlのプログラムを用いて不要な部分を除去するテキスト整形、④Wordのスペルチェック機能によるチェックと目視による最終確認を行うことでOCRソフトによる変換ミスを修正、というのが主な工程である⁵⁾。この工程を経て構築したデータベース(大学入試共通試験問題コーパス)にプログラミング言語Perlで作成した分析プログラムを使用して、日本の「センター試験」と韓国の「수능시험 (修能試験)」の使用語彙の総語数と異語数、可読性(Readability)としてTTR(Type Token Ratio)とFlesch-Kincaid Grade Levelの計測、さらには、大学英語教育学会(2003)の語彙リスト「JACET8000」を用いた使用語彙の難易度レベル別の占有率の分析など多角的な比較分析を試みた⁶⁾。なお、本研究の分析手順は津村(2009)に準じている。

4. 分析結果・考察

総語数における経年的変化をみると(図3を参照)、日本の「センター試験」も韓国の「수능시험 (修能試験)」も前半部分では増減を繰り返しながら横這いに推移している。だが、後半部分は(韓国の「수능시험 (修能試験)」は2001年度入試以降、日本の「センター試験」は2002年度入試以降)は一貫して総語数は増え続けていることがわかる。なお、ここ数年

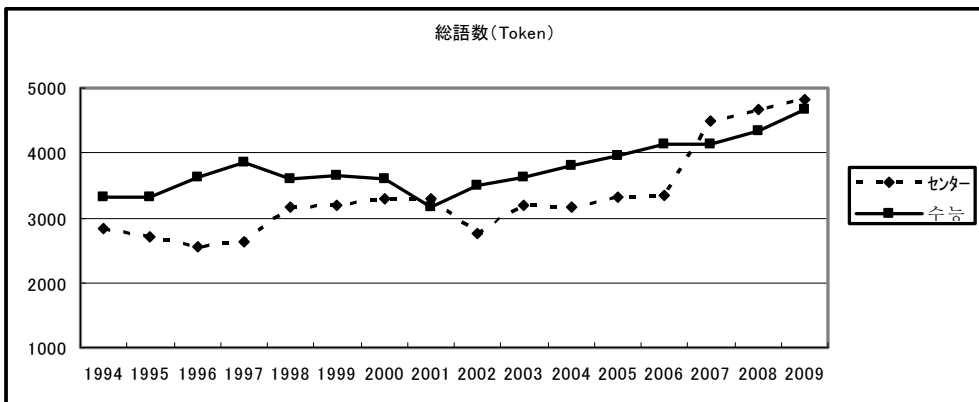


図3 日本の「センター試験」と韓国「수능시험 (修能試験)」の総語数の推移

の日本の「センター試験」の総語数の顕著に増加しているのは2006年度入試から「英語リスニング」が導入されたことによるものである（ただし、2006年度入試では「筆記」の使用語彙が大幅に減少したためにグラフの上昇はみられなかった）。総語数は日本の「センター試験」が約2800-4800語（平均3337.6語）の幅に対して、韓国の「수능시험（修能試験）」は約3300-4700語（平均3769.4語）の幅で推移している。2009年度入試では日本の「センター試験」は約4800語、韓国の「수능시험（修能試験）」は約4700語にまで達しており、16年前の1994年度入試の時点と比較すると約1.5倍にも増加している。このような総語数の増加傾向は、入試問題の読解問題（対話文読解・長文読解）の本文が長文化していることを裏付けており、最近の入試問題では読解の速さが求められるようになってきたことを表していると言えよう。

異語数の経年的変化の推移をみると（図4を参照）、日本の「センター試験」の異語数も韓国の「수능시험（修能試験）」の異語数も前半部分では横這いだったが、（総語数と期を同じくして）後半部分では一貫して増加している。異語数は日本の「センター試験」が約710-1250語（平均835.9語）に対して、韓国の「수능시험（修能試験）」の異語数は約910-1610語（平均1128.4語）の幅で推移している。日本の「センター試験」と韓国の「수능시험（修能試験）」の異語数の差は約150-450語（平均292.6語）の幅で推移しており、最初の1994年度入試の時点で開いた状態のまま現在に至っている。総語数の分析結果との関係で注目されるのが2007年度から2009年度の過去3年度分のデータである。コーパスの一般的原理として、総語数が増えれば異語数も増加するはずだが、日本の「センター試験」が総語数で韓国の「수능시험（修能試験）」を上回りながらも異語数は下回るという現象が起きている。この要因については、語彙リストの分析結果に委ねることになるが、増加分となった「英語リスニング」の語彙が基礎レベルに集中しており「筆記」と重複する語彙が多いためと考えられる。

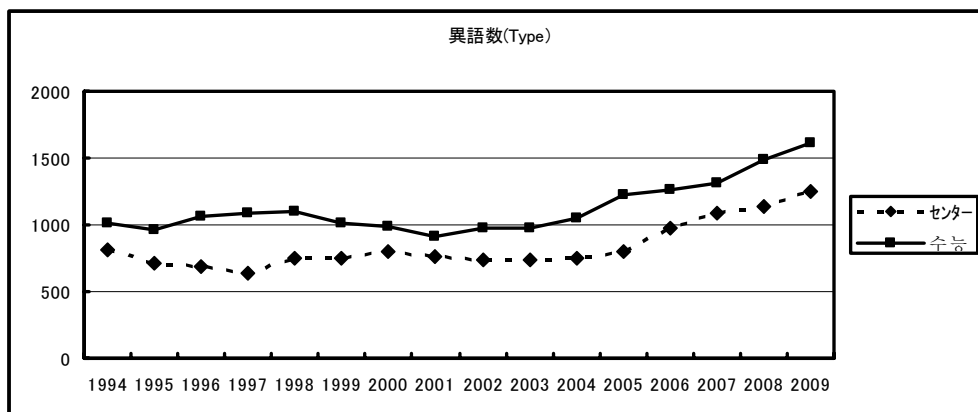


図4 日本の「センター試験」と韓国「수능시험（修能試験）」の異語数の推移

次に、可読性(Readability)の分析結果について述べる。可読性とは、総語数と異語数、単語の難しさと文の長さなどの要素から計測されるテキストの読みやすさを示す指標のことである。

る。ここではTTR(Type-Token Ratio)値と Flesch-Kincaid Grade Level 値の計測を行った (図5・図6を参照)。なお、計測対象は試験問題の対話文や長文などの文章のみとして選択肢や語群などは数値の精度を高めるために除外した。分析の結果、TTR(Type-Token Ratio)値も Flesch-Kincaid Grade Level 値も過去16年間を通して韓国の「수능시험 (修能試験)」の方が数値が高く推移しており、日本の「センター試験」よりも読みの難度が高いということが判明した。まず、総語数と異語数による TTR(Type-Token Ratio)値では、日本の「センター試験」

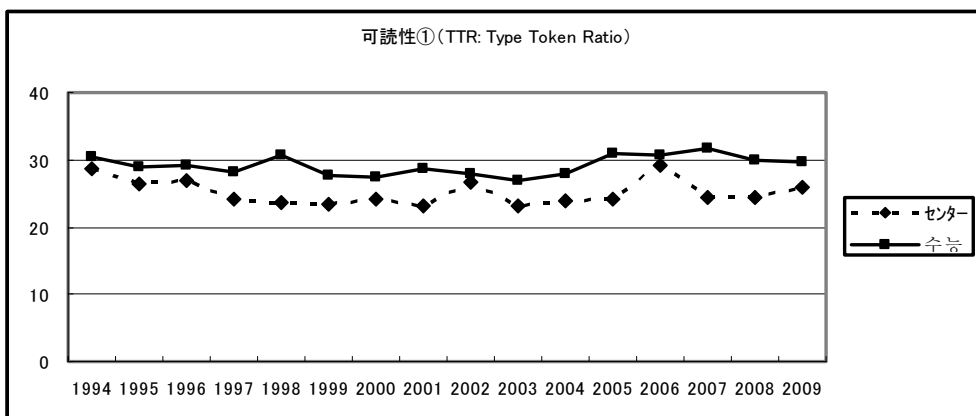


図5 日本の「センター試験」と韓国「수능시험 (修能試験)」の可読性の推移①

も韓国の「수능시험 (修能試験)」も増減を繰り返しながらほぼ横這いに推移している。日本の「センター試験」と韓国の「수능시험 (修能試験)」の総語数と異語数が同調して増加しているために経年的変化が半然としない。そこで、別の指標として音節数などの要素も含めて複合的に計測する Flesch-Kincaid Grade Level 値による分析をしたところ、日本の「センター試験」と韓国の「수능시험 (修能試験)」の可読性の経年的変化を検出することができた。日本の「センター試験」も韓国の「수능시험 (修能試験)」も前半部分までは横這いだったが、

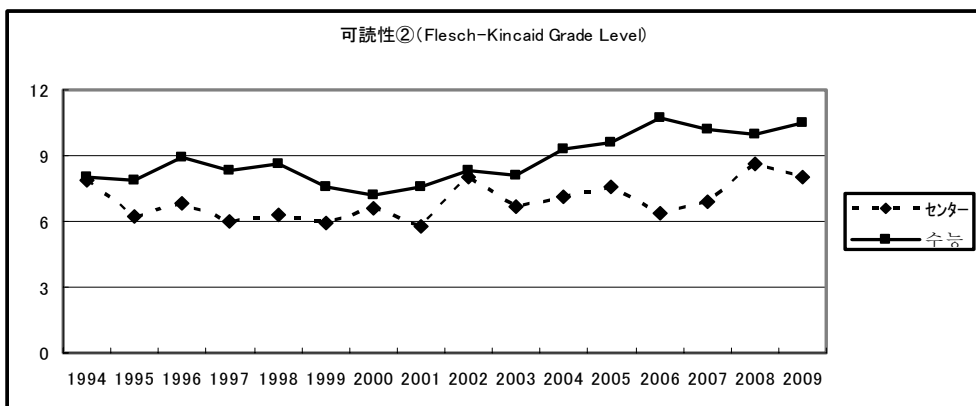


図6 日本の「センター試験」と韓国「수능시험 (修能試験)」の可読性の推移②

後半部分（韓国の「능시험 (修能試験)」は2001年度入試、日本の「センター試験」は2002年度入試）からは少しずつ上昇しており、ともに試験問題の可読性が難化傾向にあることが読みとれる。また、総語数と異語数のデータと照合してみると、Flesch-Kincaid Grade Level値の上昇や幅にずれが存在していることがわかる。つまり、日本の「センター試験」と韓国の「능시험 (修能試験)」の語彙には単なる量的な変化（読解問題の長文化）のみならず質的な変化（語彙レベルの難化）も生じているということが伺える。このような語彙の質的な変化を検証するには語彙リストを用いた分析が不可欠となる。

最後に、語彙リスト「JACET8000」を用いたレベル別（難易度別）の占有率の分析結果について述べる（資料「語彙リスト（JACET8000）による分析結果」を参照）。日本の「センター試験」も韓国の「능시험 (修能試験)」も前半部分まではレベル毎の語彙の占有率は横這いに推移していたが、後半部分（韓国の「능시험 (修能試験)」は2001年度入試、日本の「センター試験」は2002年度入試）からは次第に高いレベルの語彙の占有率が上昇するようになり、日本の「センター試験」も韓国の「능시험 (修能試験)」もともに使用語彙が徐々に難化している傾向にあることが明らかになった。具体的には、1000語レベル（JACET1000）では日本の「センター試験」の占有率の方が韓国の「능시험 (修能試験)」の占有率よりも高く、2000語レベル（JACET2000）では日本の「センター試験」の占有率と韓国の「능시험 (修能試験)」の占有率はほぼ横並び、3000語レベル（JACET3000）から8000語レベル（JACET8000）までは韓国の「능시험 (修能試験)」の占有率の方が日本の「センター試験」の占有率よりも高い状態で推移している。つまり、日本の「センター試験」は1000語レベル（JACET1000）の占有率が高いので3000語レベル（JACET3000）以上の語彙が少なくなるのに対して、韓国の「능시험 (修能試験)」は3000語レベル（JACET3000）以上の語彙にも占有率が分散しているので1000語レベル（JACET1000）の占有率が低くなっている。以上の分析結果から、日本の「センター試験」よりも韓国の「능시험 (修能試験)」の方が単に量的に多いのではなく難度の高いレベルの語彙も使用しているとともに、質的にも幅広い語彙で試験問題が作成されているということが判明した。

5. まとめと考察

本稿では、日本の「センター試験」と韓国の「능시험 (修能試験)」の「外国語『英語』」の試験問題（1994-2009年度）を言語資料としてコーパス言語学の視点から試験問題で使われている語彙に関する計量的な分析を試みた。冒頭で掲げたりサーチ・クエスチョンに対する考察をまとめる。まず、「韓国の『능시험 (修能試験)』にはどのような語彙が使用されているのであろうか」については、総語数は日本の「センター試験」が約2800-4800語（平均3337.6語）、韓国の「능시험 (修能試験)」は約3300-4700語（平均3769.4語）の幅で推移しており、日本の「センター試験」も「韓国の「능시험 (修能試験)」も増加傾向にある。

異語数は日本の「センター試験」が約 710-1250 語（平均 835.9 語）、韓国の「수능시험（修能試験）」は約 910-1610 語（平均 1128.4 語）で推移しており、総語数と同様にともに増加傾向にある。なお、2006 年度入試から日本の「センター試験」に「英語リスニング」が導入されたことで総語数は韓国の「수능시험（修能試験）」を越すことになったが、異語数は依然として「韓国の「수능시험（修能試験）」の方が多かった。従って、（最近数年の日本の「英語リスニング」を総語数の合算から除外すれば）過去 16 年間において総語数も異語数も韓国の「수능시험（修能試験）」の方が多い状態で推移している。次に、「韓国の『수능시험（修能試験）』は日本の『センター試験』と比べてどちらが難しいのか」については、TTR 値と Flesch-Kincaid Grade Level 値による可読性の分析結果から、韓国の「수능시험（修能試験）」の方が語彙の質と文体の複雑さで日本の「センター試験」よりも難しいという結果となった。さらに、語彙リスト「JACET8000」をスケールに用いた結果、日本の「センター試験」よりも韓国の「수능시험（修能試験）」の方が難度が高いレベルの語彙の占有率が高くなっていることから韓国の「수능시험（修能試験）」の方が質的にも豊かな語彙が試験問題に使用されていることが判明した。さらに、「小学校の英語教育導入に伴う大学入学共通試験の変化はみられたのか」に対する考察としては、小学校での英語教育を受けた第 1 期生が大学入試を迎えた 2007 年度前後の入試問題のレベルを比べたところ、実際にはかなり前となる 2000 年度入試の頃から少しずつ韓国の「수능시험（修能試験）」の使用語彙は量的に増加して質的に難化していたのであり、その後も継続して難化していることから、第 1 期生の大学入試に臨んだ 2007 年度入試に合わせて難化したわけではないということが明らかになった。

註

- 1) 2009 年度入試における「センター試験」の利用状況は、国立大学 82 校（全校）、公立大学 74 校（全校）、私立大学は 487 校 1380 学部であった。ちなみに、第一回目の「センター試験」（1990 年度入試）に参加した私立大学は 16 校 19 学部にとどまっていた。そもそも、「センター試験」の前身となる「共通一次試験（1979-1989）」は国公立大学の入学試験の一次試験として実施されていたが、「センター試験」へと改編されてからは私立大学にも開放されるようになった。
- 2) 韓国の「수능시험（修能試験）」は、日本の「センター試験」のように（1 月の中旬の）週末の土曜日と日曜日の 2 日間に渡って実施するのではなく、（11 月の中旬の）平日の 1 日で全科目を実施している。
- 3) 「수능시험（修能試験）」におけるリスニング問題の全問題での比率は、1994-1995 年度までは約 16%、1996 年度が 20%、1997 年度が約 24%、1998-2009 年度までが 34%と次第に上昇している。
- 4) 「수능시험（修能試験）」の試験日はすべての学校（初等学校から大学まで）が休講日で、試験会場周辺では合格祈願の祈りを捧げる保護者や、受験生の出身高校の後輩が集合してお茶やスープなどを用意して受験生にエールを送る様子が見られる。この他、試験会場に遅刻しそうになった受験生を警官が白バイやパトカーに乗せて試験会場まで送るという光景も毎年のように見受けられる。
- 5) スキャナは ScanSnap S500 を、OCR ソフトは同製品付属の ScanSnap Organizer Ver.3.0L10 を使用した。

なお、ScanSnap は Adobe Acrobat や e-Typist など他の OCR ソフトにも対応しているが、同製品との相性と認識率の高さから ScanSnap Organizer を使用することとした。なお、テキストの lemma 化は TreeTagger を活用する Perl プログラムを作成して行った。

- 6) 「JACET8000」は大学英語教育学会 (JACET) が「BNC (British National Corpus)」を基準スケールとしてアメリカ英語コーパスをサブコーパスに取り入れて作成した語彙頻度による難易レベル別の語彙リストである。本研究ではこの語彙リストに収録されている 8000 語を 1000 語レベルごとのリストに分割して 8 つのレベルとそれ以外に分類する Perl プログラムを作成して解析した。

参考文献

- 伴浩美 (2002) 「東アジアと米英の英語教科書の計量的解析比較」『人文社会学部紀要』Vol.2 富山国際大学人文社会学部, 75-82.
- 大学英語教育学会 (2003) 『大学英語教育学会基本語リスト (JACET8000)』大学英語教育学会.
大学入試センター <http://www.dnc.ac.jp>
- 한국교육과정평가원 <http://www.kice.re.kr>
- 시사영어사 (2006) 『수능기출문제총정리 영어』 시사영어사.
- 河合忠仁 (2005) 『韓国の英語教育政策』関西大学出版部.
- 清永克己 (1999) 「日本と韓国における『コミュニケーション能力育成』への取り組み -中学校課程を中心とした比較研究-」『鳴門英語研究』第 10 号 鳴門教育大学英語教育学会, 31-41
- 教学社 (2006) 『大学入試センター試験過去問研究 英語』教学社.
- 投野由紀夫 (2008) 「中国・韓国・台湾・日本の英語教科書の特徴分析」『第二言語習得を基盤とする小、中、高、大の連携をはかる英語教育の先導的基礎研究』(平成 16 年度-平成 19 年度科学研究費補助金 基盤研究 (A) 研究成果報告書), 97-102.
- 津村敏雄 (2009) 「日本と韓国の英語教科書における使用語彙の比較研究」[東京大学外国語教育学研究会編『外国語教育学研究のフロンティア』成美堂, 38-51.]
- 馬越徹 (1981) 『現代韓国教育研究』高麗書林.

資料 語彙リスト(JACET8000)による分析結果

